

令和3年度長野市スポーツ推進審議会（第7回）会議録

日 時	令和4年3月14日（月） 午後2時00分～午後3時30分
会 場	長野市役所第二庁舎10階 講堂
出席者	委員12名、オブザーバー1名、事務局10名
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1)国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備計画（案）について</p> <p>(2)その他</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p>
議 事	<p>（議事進行 堀江会長）</p> <p><u>議事(1)：国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備計画（案）について</u></p> <p>事務局より国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備に向けた提言について及び長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画（案）について説明。以下質疑応答。</p> <p>A委員：リバーフロントスポーツガーデンは機能移転するということだが、移転後の芝生の計画はどう考えているのか。</p> <p>事務局：現在リバーフロントスポーツガーデンは、AC長野パルセイロの練習場として使われており、芝生はプロ仕様のもので、指定管理料で1億円ほどの管理費がかかっている。機能移転後は、芝生のグレードを下げ、施設の維持管理費を抑える予定である。現在サッカーの競技者数は増えているが、サッカー場の需要が満たされているわけではない。現在は河川敷にあるため、河川の増水等で水害が起こる可能性もある。今後は様々なことを踏まえながら、1つに縮小することも考えていきたい。</p> <p>A委員：承知した。施設公共マネジメントとの整合を取る必要があると思う。『長野市公共施設適正化検討委員会による「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備に向けた提言」の概要』12頁にあるとおり整備後にはコストも削減されることを踏まえると、継続使用することがプラスアルファになると思うので、ぜひしっかりとした計画をお願いしたい。また、リバーフロントスポーツガーデンの南側にラグビーの練習場があるが、それはどのようなになるのか。</p>

事務局：ラグビーの練習場はラグビーポールが立てられるA面になるが、その横に隣接するのがB面とC面である。最初にできたのがこの3面であり、今後面数を削減していくとすれば、現段階で最後まで残すのはA・B・C面になるかと思う。

B委員：長野市公共施設適正化検討委員会で提言を作成する中で、市のスポーツ施設状況や適正化含め、市と委員の中でずれ等は無かったか。

事務局：一番大切なのは、「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備に向けた提言」5頁にも記載してあるが、現在の施設に対しては必要な長寿命化改修を施して十分に活用し、新たな整備が必要な場合は公共マネジメントに沿った内容で対応するということであり、その上で長野市公共施設適正化検討委員会でも協議を行った。先程説明させていただいた長野運動公園総合体育館はスポーツ面としての役割も十分大きいですが、令和元年には避難所としても利用した経緯がある。しかし、その際は冷房設備が整っていなかった。今後整備するにあたっては、普段スポーツで利用しない市民など幅広い方の理解を得られるように整備する必要があると考えている。多くの市民の方に生活の中で利用していただけるような複層的な活用ができるユニバーサルデザインが整った施設の建設に向けて、今後の施設整備計画を進めていきたいと考えている。

B委員：承知した。

長野運動公園総合体育館の利用者は多いと思うが、施設が解体されてから新たに建設されるまでの間、何か代替施設などは考えているか。

事務局：今後手順については検討していくが、避難所としての役割もあるため、建て替えの施設を作った後に解体を行った方が市民の理解を得ることができると考えている。

B委員：承知した。

長野運動公園の中で、唯一県営野球場のみが市で所管する施設ではないと思うが、県の方で改修する方向はあるのか。

事務局：県営球場が一番老朽化が進んでいる。現在、県の方へ改修に向けた働きかけを行っている。

C委員：三才にある北部スポーツ・レクリエーションパークはとても利用しやすく、駐車場も広くて良い施設なのだが、体育館が併設されていない。なぜ体育館が併設されていないのか教えてほしい。

新しくできる長野運動公園総合体育館は、車いすバスケや車いすバドミントンの練習ができる場所がないとテレビで聞いたが、そのようなスポーツができる環境も整えていただきたい。

事務局：北部スポーツ・レクリエーションパークの体育館についてだが、体育館は併設されていないため、長野運動公園総合体育館や、近くの昭和の森フィットネスセンター、豊野体育館を利用いただきたいと思う。

長野運動公園総合体育館は、全国障害者スポーツ大会の車いすバスケの会場となるので、バリアフリーの観点、ユニバーサルデザインの観点を踏まえて施設の建設を考えていきたいと思う。

D委員：公共施設適正化検討委員会として、長野運動公園総合体育館の視察へ行ったが、避難所として利用するには、お年寄りの方にとって厳しい環境だったということがよく分かった。スポーツをすることに特化した施設ではなく、広く社会に貢献できる施設として建設していただきたい。利用者にとって支障の無い場所に長野運動公園総合体育館を建設するという事は、西側か北側になると思うが、プールと連結して作ることができたら、世界大会なども開催できるようになり、世界大会へ出場するような選手も輩出できるのではないかと思う。

議事(2)：その他

オブザーバー：来年度、長野県でも第三次スポーツ推進計画を策定する。今回委員の皆様からいただいた内容を参考に、作成していきたいと思う。報告が2つある。まず1つ目は、2028年に長野県で開催される国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会の愛称とスローガンが確定した。応募者数が2,380人、応募作品数は4,204点になる。愛称は「信州やまなみ国スポ・全障スポ」である。大会に関わる全ての人が、信州の山並みのように手を取り合い、未来へつながる大会開催を目指すという思いが込められている。スローガンは、「いこう。それぞれの頂へ。」である。大会に関わる全ての人が自分の思い描く頂を目指すという思いが込められている。2つ目は、県が行っているSWANプロジェクトの修了生3名が、今年2月に開催された北京2022冬季オリンピックに出場した。引き続き選手の育成に力を入れていきたいと考えている。

文化スポーツ振興部長挨拶

以上